

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二選

- 地震にも耐えて守ったこの家で傷持つ家具と新年祝う 安永 川野 光子
盛大に生けた正月花の水 音立てて飲む猫の元日 安永 山下たか子
地震から二度目の正月迎えたり仮設に揚がる日の丸清し 広崎 松原まゆみ
改まる年の初めを祝つてる健気に咲いた水仙の花 安永 福田 圭子
災害の置き場となりし学校の跡地は片され漸く穏し 安永 守住 孝子
地震による家の崩壊みえたけど眼には写らず崩れた心 安永 金子フム子
強霜は土を擡げて立ち上がり白き柱が朝の陽に輝る 惣領 島田 廣子
車椅子乗る人それを押す人も笑顔あふるるデイクエアの朝 小谷 今吉マキ子
先立ちし妻の墓前につつましく花の一輪吾を待ちたり 赤井 増岡 伸禧
平成も終わりが見えてIT波 超高速で押し寄せている 寺迫 今村 文字
この星はわたしの星よあなたにはあの星あける光る指先 馬水 西田 正己

投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

- お年玉孫の笑顔が福まねく 広崎 瀬戸サイ子
「ありがとう」一筆添えてシクラメン 木山 今吉美美江
凧あげの途絶えて久しグラウンド 馬水 西田 正己
石けんの小さくなりて年の暮れ 宮園 野口志津子
万歩計ポッケに軽く小春かな 小谷 今吉マキ子
震災に耐えし椿や冬うらら 小谷 今村 文字
年玉を配る幸せ皆えがほ 広崎 松原まゆみ
七草や湯気立つ部屋の笑顔かな 赤井 鈴木 駒
初雪や一夜変貌阿蘇の山 木山 山口サツキ
一句鑑賞
元旦やいつもの道を母の家 星野 立子

狂句

田上 富岳 選

- 昭和の男 亭主関白絵のような 木山 今吉美美江
昭和の男 人の意見は聞かっさん 赤井 鈴木 駒
昭和の男 肥後モッコスで生きとらす 広崎 松原まゆみ
昭和の男 ひもじさ耐えた少年期 赤井 増岡 酔粋
まだ子どもだろ そぎゃん思うと大まぢぎゃ 赤井 西山恵美子
まだ子どもだろ 年は取つても甘えん坊 江津 高田美佐子
まだ子どもだろ 嫁にやっとなにやむぞなげな 赤井 増岡 酔粋
まだ子どもだろ 世代論は早すぎる 広崎 瀬戸サイ子

狂句次号の課題「頭を下げて」「混乱つて」

益城の文化財 町文化財保護委員会



田原

台湾大甲の聖人 志賀 哲太郎

志賀哲太郎は鍛冶屋であった父・甚三郎、母・ジユカ力の長男として慶応元(1865)年、田原村(現・益城町田原)で誕生。幼少の頃から聡明で、地主・中村傳兵衛の支援を受け学問に励みます。24歳で九州日日新聞(現・熊本日日新聞)の記者となり、同時に佐々友房や古荘嘉門、安達謙蔵(いずれも後に国会議員、大臣や県知事になる)らと政治活動に奔走します。その後、政界と決別した志賀は、日清戦争後に日本に割譲された台湾の子弟教育に力を尽くそうと、明治29年、31歳の時に台湾の地に渡ります。翌年、大甲公学校(台湾人の小学校)の教員として雇われますが、履歴書には「学歴なし」として代用教員となり、満59歳で亡くなるまでの26年間、今日の台湾の繁栄の礎を築いた多くの人材を育てました。また、一人の人間としても慈愛に満ち、平等に住民に接し、「聖人」として慕われます。志賀哲太郎の葬儀では葬送の列が1キロ以上にも達し、街を挙げて弔ったといわれています。